

PROFILE

田 淵 克 彦

信州大学医学部神経生理学（分子細胞生理学）講座・教授



平成 24 年 9 月 18 日付で信州大学医学部・神経生理学講座の教授に就任しました。田淵克彦と申します。私は平成 7 年に筑波大学医学部を卒業した後、すぐに基礎医学系の大学院に入り、岡野栄之先生（現慶應義塾大学医学部生理学講座教授）の下でショウジョウバエの遺伝学を用いた神経発生の研究を行いました。学位取得後、米国テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンターの Thomas C. Südhof 博士の下にポスドク研究員として留学しました。Südhof ラボでは Neurexin, Neuroligin などシナプスオーガナイザーとして知られる分子の機能解析を目的として、これらの knock-in/knockout マウスの作成を行っていましたが、しだいにこれらの分子が自閉症と関係していることが分かり、研究の方向性を自閉症の病態解明にシフトしていきました。この間、ボスがスタンフォード大学に移ったため、私も一緒にスタンフォードへついて行きました。

米国生活も長くなり、米国で永住することも考えていたのですが、平成 21 年、愛知県岡崎市にあります生理学研究所の重本隆一先生の研究室に准教授として採用していただけることとなり、約 10 年に渡る米国での研究生活を終えて帰国しました。同年、科学技術振興機構のさきがけ研究員に採択され、頂いた研究費で電気生理のセットアップを構築しました。また重本先生から電顕技術も学びました。まだまだ修行半ばだったのですが、重本先生が突然、オーストリアに設立された Institute of Science and Technology (IST) のラボヘッドにリクルートされ、生理研のラボが解散することになってしまいました。次の行き先を探さなければいけない状態になりましたが、運良く信州大学で現在のポストを得ることができ、着任するに至りました。

信州大学では、器官制御生理学講座の大橋俊夫教授と共に、医学科の生理学の講義を担当してお

ります。大橋先生は昨年日本生理学会の大会長をされ、これまで生理学の本道を歩んで来られた方ですので、いろいろ学ばせて頂いております。年度途中での着任となったため、現在は生理学研究所との兼任として、研究は主に生理研で継続しております。ラボのメンバーに、東大の三品先生の研究室で助教をしていた植村健さんと安村美里さん、信州大学の他の講座から移ってきた塚原完さん、橋本繁成さんが加わり、生理研で指導をしていた外国人の大学院生 3 名も合流することになりました。当面、シナプス分子と神経疾患の研究をテーマの中心に据え、構造生物学的アプローチと電気生理学的アプローチを融合させて研究を行っていく予定ですが、将来的には神経科学にとどまらず、幅広い生理学分野の研究をしたいと考え、4 月から講座名を分子細胞生理学に改めることにしました。まだまだ未熟者ではありますが、日本生理学会の皆様には今後ともご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

略歴

- 平成 7 年 筑波大学医学部卒業
- 平成 11 年 大阪大学医学部大学院博士課程修了
- 平成 11 年 テキサス大学サウスウェスタンメディカルセンター・ポスドク研究員、Assistant Instructor (平成 17 年)、Instructor (平成 19 年)
- 平成 20 年 スタンフォード大学医学部・Basic Life Science Research Associate
- 平成 21 年 自然科学研究機構生理学研究所・准教授
- 平成 21 年 (独) 科学技術振興機構さきがけ・研究員 (兼任)
- 平成 24 年 信州大学医学部神経生理学講座・教授